

(1) 草津PAと連携した滋賀県南部エリアの活性化にかかるこれまでの取組について

発言者	意見(要旨)	対応・検討の状況
塩見委員	◇草津PAの高度利用にあたっては、上下線で場所が離れていることがネックではないか。今後の方向性として、構造的な見直しも含めた検討になるのか、ある程度現状を維持するのか。	◇下り線は既存下りPA周辺の活用、上り線は草津田上IC～一般道を経由した利用も想定することで、大きなハード整備を伴わずとも上下方向の一体利用が図られると考える。 基本計画においては、国の交通拠点調査と連携しながら、上下の一体利用のハード整備のあり方を検討する。
岡井会長	◇既存バス停と草津PAの間は距離があり、自動車を持っていない人が草津PAにすぐに行ける状況ではない。研究会の中で、公共交通を新しく整備することも含めて議論するのか。	◇高速バス停と路線バス停を本拠点で一体的に利用できるようにすることで、利便性を高める等、国の交通拠点調査と連携しながら検討していく。 また検討会での議論は地域交通計画の検討にも反映する。

(2) 草津PAと連携した滋賀県南部エリアの活性化にかかるこれまでの取組について

発言者	意見(要旨)	対応・検討の状況
塩見委員	◇バス路線の再編には構想の中でどこまで触れておくのか。ステークホルダーの合意形成や地域公共交通計画との連動などが必要になるが、それを踏まえるとスケジュールがタイト。今年度中に合意形成を完了する目標なのか。 ◇需要を予測しながら費用対効果の高いプランを考えるべきだが、KPI(具体的な目標)がないと構想が示せないのではないか。経緯も含めてもう少し情報を知りたい。 ◇国交省のバスタのガイドラインにある「ハイウェイバスタ」に該当する取組になろうかと思う。バスタのガイドラインでの視点は共有しておくべきで、国内の事例を参考にすることも有効。検討会においても国の動きを共有できると良い。	◇バス路線の再編も含めた拠点へのアクセス、拠点から周辺のアクセスのあり方については、基本計画での検討を想定している。それを念頭に置きながら、基本構想においては、交通面の課題に対する対応方針として、路線バスからJRへの利用環境の充実を掲げている(→資料2-1)。地域公共交通との連動にあたっては、関係者、機関からも意見をいただいく。 ◇KPI(重要業績評価指標)など具体目標に関しては、国の交通拠点調査と連携しながら、基本計画の検討において具体的な導入機能等の施策を踏まえ、指標の抽出などの検討を進める。 ◇「交通拠点の機能強化に関する計画ガイドライン」において位置付けられた「交通拠点に求められる機能」(交流等機能、防災機能、交通機能)に基づき、にぎわい、防災、交通の視点から拠点整備の検討を進めている。具体的な導入機能や整備のあり方の検討にあたっては、整備事例に関する情報収集を行い参考とする。検討を進めるにあたり適宜、国とも連携を図っていく。
松澤委員	◇この施設の想定される集散交通や人の動き、周辺の交通予測も見せていただければと思う。	◇国の交通拠点調査における需要調査結果などを適宜検討会で共有する。

(3) その他(意見交換)

発言者	意見(要旨)	対応・検討の状況
奥委員	◇草津PAに訪れたい魅力をどのように発信していくかは課題。訪れた人を草津市や大津市にどのように誘導するか。草津PAで大学のオープンキャンパスや大学の研究のPR等をしながら、学生誘致に繋がるとよい。	◇大学や周辺施設との連携・交流促進に関しては、課題に対する対応として掲げている。具体的な導入機能については、市民アンケート(→資料3-1)やワークショップ(→資料2-3)によるニーズ把握、サウンディング調査、国の交通拠点調査における需要把握等を踏まえ、基本計画の検討の中で具体化していく。
塩見委員	◇この計画には賛成で期待している。立命館大学に勤務しているが、滋賀医科大学や龍谷大学との連携ができておらず、ポテンシャルが発揮できていない。一体となって地域に染み出していくような展開を期待したい。 ◇ポテンシャルが具体的に何なのか示せていない。具体的に何ができるのか、誰にどの程度使ってもらえるのか、新しい需要が生まれるのか、精査が必要。他の計画との連携も重要。	◇(大学との連携に関しては同上) ◇現状の認識について、にぎわい、防災、交通の視点から、ポテンシャルと問題点に分けて整理した(→資料2-1、資料2-2 P7~41)。基本構想においては、課題に対する対応方針までを取りまとめ、具体的な導入機能については、市民アンケート(→資料3-1)やワークショップ(→資料2-3)によるニーズ把握、サウンディング調査、国の交通拠点調査における需要把握等を踏まえ、基本計画の検討の中で具体化していく。また、国の交通拠点調査における需要調査結果などを適宜検討会で共有する。
高橋副会長	◇検討会で何を議論しているのか不明瞭。何でもできるというわけではないため、もう少し論点を絞ることが大事では。 ◇参加者の方々からどのような意見が集まればよりよいアウトプットになるのか。	◇本検討会においては、令和3年10月に策定した南草津エリアまちづくり推進ビジョンに基づき、その一部地域である草津PA周辺エリアの課題に対する対応のあり方について、にぎわい、防災、交通などの分野から御意見をいただきたい。(→資料2-1)

発言者	意見（要旨）	対応・検討の状況
岡井委員	◇検討会のゴールが曖昧。エリアをどのように活性化していくかがテーマだが、この場所を知らない人に意見を求めるには、課題からの説明が必要かもしれない。	◇本検討会は、令和3年10月に策定した南草津エリアまちづくり推進ビジョンに基づき、その一部地域である草津 PA 周辺地域の拠点整備による活性化に向けた具体の構想を策定するもの。 草津 PA 周辺の課題とその対応について、事務局提示案に対し御意見をいただきたい。（→資料 2-1）
喜多委員	◇数年前より瀬田からアクセスする便を運行しているが、草津 PA に関連した利用は少ない。まちづくりの中からどのような需要が生じるか検討して、必要な需要が生じてくれば協力したい。	◇令和 4 年の国の交通拠点調査でのアンケートにおいて、草津 PA に高速バス停が設置された場合、地域住民・来訪者に一定の利用意向があることを確認している。にぎわい機能の創出に加え、そうした高速バスの活用と路線バスとの接続等により、新たな需要が生まれるものと認識している。なお、国の交通拠点調査における需要調査結果などを適宜検討会で共有する。
北村委員	◇沿線における人流や路線バスを活用した集客拠点ができるのであれば協力したい。今後、山手幹線延伸で需要喚起ができる一方、新名神の開通で交通動線が移行するリスクもある。需要喚起は協力してやっていきたい。	
河本委員	◇滋賀県南部エリアの課題とその改善方法がイメージできていない。草津 PA との連携は賛成でネクスコとしても協力したい。国で検討される交通拠点機能強化の必要性もあるが、市としてどのようなエリアにしていきたいのか議論が必要。	◇現況を踏まえたにぎわい、防災、交通に関する課題認識と対応について整理した。（→資料 2-1）。 ◇市としては南草津ビジョンにエリアの目標および方針を掲げており、にぎわいの創出、広域防災拠点の形成、交通結節機能の強化を図ることとしている。アウトライン(案)(→資料 2-1)では、前段にそのような目標を明記した。
野村委員	◇エリアのポテンシャルの高さを活かすためのアクションにつながっていない。検討会の場で具体化が必要。 ◇我々にどのような視点での発言を求めているのかを明確にしてほしい。ステークホルダーとしての発言はしたい。	◇草津 PA 周辺エリアのポテンシャルの高さを活かした課題に対する対応のあり方について、にぎわい、防災、交通などの分野から御意見をいただきたい(→資料 2-1)。具体的な導入機能については、市民アンケート(→資料 3-1)やワークショップ(→資料 2-3)によるニーズ把握、サウンディング調査、国の交通拠点調査における需要把握等を踏まえ、基本計画の検討の中で具体化していく。
吉川委員	◇草津市が対応する意味を考えるべき。国や県とも連携しながら、草津市民の要望がおざなりにないよう、市民にとっての機能、滋賀県の玄関口としての機能の両立が必要。	◇本検討会は、令和3年10月に策定した南草津エリアまちづくり推進ビジョンに基づき、その一部地域である草津 PA 周辺地域の拠点整備による活性化に向けた具体の構想を策定するもの。 検討においては、市民アンケートにおいて地域ニーズを把握した上で市民に対するメリットを提示するとともに、隣接する大津市、滋賀県南部地域への波及効果も併せて提示していく。（→資料 3-1）
棚橋委員	◇検討にあたってはびわこ文化公園都市将来ビジョンとの連携を図りつつ、滋賀県にも、今回の検討会の内容をビジョン見直しに反映してほしい。 ◇隣接する都市計画道路整備の要望を続けている。道路整備も重要な視点であり、県と連携し道路ストック効果が発揮できるよう取り組んでほしい。 ◇草津市としてもしっかり前に進めていきたい。草津川跡地のように、新たな組織を作るなど体制を構築しながら取り組んでほしい。	◇滋賀県におけるびわこ文化公園都市将来ビジョンの見直しおよび各施策との連携などを踏まえて検討する。 ◇都市計画道路平野南笠線の整備については、当該地域のみならず草津市全体にとっても非常に重要な道路であり、滋賀県と連携しながら実現に向け取り組んでいきたい。 ◇市として具現化に向け、適宜体制を整え取り組んでいく。
大塚委員	◇近隣の関係者にとってのニーズを見ていく必要。もう少し広い範囲での施設立地や機能の過不足についても今後検討されるのかと思う。	◇地域ニーズについては、昨年度実施したびわこ文化公園都市内施設へのアンケート(→資料 2-4) や今年度実施した学生ワークショップ(→資料 2-3)に加え、市民アンケートにて把握していく。施設立地については現状整理の中で整理したが(→資料 2-2 P15)、地域に不足する機能などについて意見をいただきたい。
松田委員	◇びわこ文化公園都市の将来ビジョン(平成 24 年策定)の見直し検討を進めている。ソフト的な取組で施設間連携、エリアの一体性を生む方向を考えている。交通問題は以前から指摘されており、滋賀県がかつて実証実験として立命館大・龍谷大間のバスを運行したが継続しなかった。新たな人の流れを作るといった意味では期待。 ◇具体的な形をイメージできるよう議論を進めるべき。草津 PA そのものに魅力的な機能を付与する。観覧車・水族館等の事例もある。結節点プラスアルファの魅力を備え、さらに地域に人が流れるような形にしたい。	◇びわこ文化公園都市内の各機能の連携は地域の活性化に重要なテーマであると認識しており、拠点施設がその一翼を担えるように必要な機能などの検討を進める。 施設間移動については、交通課題に対する対応方針として回遊手段の確保を掲げている。今後、基本計画の検討において、国の交通拠点調査とも連携しながら、導入機能の具体化を図る。（→資料 2-1） ◇交通面だけでなく、地域振興の視点からにぎわい、商業、交流機能など必要な整備について意見をいただきたい。なお、検討にあたっては民間活力導入なども踏まえて検討していく。
池田委員(代)	◇様々な機能はあるが、ターゲットやニーズの見極めが必要。市場調査やニーズを踏まえて進めていくべき。	◇具体的な導入機能については、市民アンケート(→資料 3-1)やワークショップ(→資料 2-3)によるニーズ把握、サウンディング調査、国の交通拠点調査における需要把握等を踏まえ、基本計画の検討の中で具体化していく。（再）
野田委員(代)	◇整備効果として3つの視点が整理されているが、どのようなまちづくりを進めたいのかが見えにくい。県としてどのような広域ネットワークが必要なのか整理していきたい。	◇市としては南草津ビジョンにエリアの目標および方針を掲げており、にぎわいの創出、広域防災拠点の形成、交通結節機能の強化を図ることとしている。アウトライン(案)(→資料 2-1)では、前段にそのような目標を明記した。（再） ◇草津 PA を公共交通の拠点として整備することで、公共交通利用促進による周辺道路の混雑緩和の効果が考えられるが、平野南笠線の整備を連携して行うことで、混雑緩和等の効果がさらに発揮できると考えている。
渡辺委員(代)	◇湖南の地域公共交通について、各主体と連携して取組を進めてきたが、コロナの影響もあり、難しい状況が続いている。検討会の結果も見せていただき、連携していきたい。	◇路線バスのあり方に加え、高速バスとの連携についても検討し、検討会での議論は地域交通計画の検討にも反映する。

発言者	意見（要旨）	対応・検討の状況
北川委員	◇びわこ文化公園都市は大津市と草津市の市境。瀬田や大津、草津の丘陵部、南草津などのエリアをどのように一体的に活性化できるのか。市としてのまちづくりの思い、拠点としての位置づけをより強く発信することが必要では。	◇市としては南草津ビジョンにエリアの目標および方針を掲げており、にぎわいの創出、広域防災拠点の形成、交通結節機能の強化を図ることとしている。アウトライン(案)(→資料 2-1)では、前段にそのような目標を明記した。(再)
松澤委員	◇滋賀県南部エリアの活性化とあるが、エリアの定義を示す必要があるのでは。検討エリアは大津市にも隣接し、滋賀県にもしっかりと入ってもらわなければならない。	◇検討においては、市民アンケート(→資料 3-1)において地域ニーズを把握した上で市民に対するメリットを提示するとともに、隣接する大津市、滋賀県南部地域への波及効果も併せて提示していく。(再)
木村委員	◇基本構想の中でどこまで検討するのかわかりにくい。これまでの研究会でどのような施設を整備するのか議論してきた経緯もあり、それをベースに議論できないか。 ◇草津市主催の会議だが、ネクスコや滋賀県の協力も必須。役割分担についても視野に入れたい。	◇本検討会においては、草津 PA 周辺エリアの課題に対する対応のあり方について、にぎわい、防災、交通などの分野から御意見をいただきたい。具体的な導入機能については、市民アンケート(→資料 3-1)やワークショップ(→資料 2-3)によるニーズ把握、サウンディング調査、国の交通拠点調査における需要把握等を踏まえ、基本計画の検討の中で具体化していく。 ◇構想策定にあたり、適宜、関係機関と調整を図り、とりまとめていく。基本構想策定後、基本計画策定を進めるにあたり、役割分担は重要な項目であり、基本構想策定にあたっては、委員各位と調整を図りながらとりまとめていく。
寺田委員	◇大学や企業の立地もあり、大津市も含めた議論をしていく必要。草津市が計画を策定する中で、大津市や滋賀県との関係性を表現するのが難しい。	◇検討においては、市民アンケート(→資料 3-1)において地域ニーズを把握した上で市民に対するメリットを提示するとともに、隣接する大津市、滋賀県南部地域への波及効果も併せて提示していく。(再)
打田委員	◇山手幹線の開通を控え、滋賀と京都を結ぶ道路を国や県に要望している。道路状況が変化していく中で草津 PA を生かし、どのように発信し人を集められるか。国や県の事業との連携についても調整が必要。	◇高速道路や一般道(国道・県道)の将来的なネットワーク整備を踏まえ、拠点への動線等を検討する。
松尾委員	◇草津市は滋賀県下の JR 駅利用者数の1位と2位を占める。それに高速道路を利用した玄関口を兼ね備え、滋賀県の南の玄関口としていきたい。 ◇ターゲットや利用シーンも調査しながら、各行政機関がこの場所をどう活用、活性化したいのか具体的に議論を進めていきたい。	◇検討においては、市民アンケート(→資料 3-1)において地域ニーズを把握した上で市民に対するメリットを提示するとともに、隣接する大津市、滋賀県南部地域への波及効果も併せて提示していく。(再) ◇具体的な導入機能については、市民アンケート(→資料 3-1)やワークショップ(→資料 2-3)によるニーズ把握、サウンディング調査、国の交通拠点調査における需要把握等を踏まえ、基本計画の検討の中で具体化していく。(再)
岡井会長	◇将来像を検討するうえで、現状や課題について共通認識を持つことが重要。 ◇草津 PA の利用状況や周辺の土地利用(利用可能な土地がどの程度あるのか)、道路・路線バスの状況等に関する現状把握のため、資料作成をお願いしたい。 ◇ステークホルダーの方々の日頃からの考えを発信いただければと思う。基本構想のため、自らの組織ができることはもちろん、全体的に思うことや事業者間の連携なども含め、積極的な意見交換をしながら検討を進めたい。 ◇ポテンシャルが高いとの声は多いが、そこで留まっている理由も重要なポイントかもしれない。それが分かるような資料をお願いしたい。検討会での提案事項なども共有いただきながら、市としてのスタンス、委員に求める意見に関してももう少し明確にしてほしい。	◇にぎわい、防災、交通の視点から、現状・課題の整理を行った。うち、現状については、ポテンシャルと問題点に分けて整理した。本検討会においては、草津 PA 周辺エリアの課題に対する対応のあり方について、にぎわい、防災、交通などの分野から御意見をいただきたい。(→資料 2-1、資料 2-2)